



連携医療室

01 インフォメーション業務



02 前方支援



03 後方支援



連携医療室ってどんなところ？

病院を受診されても「連携医療室」という言葉を耳にされることはなかなかないかと思われます。今回は、そんなみなさんにはあまり聞き慣れない「連携医療室」を紹介したいと思います。

当院の連携医療室は、社会福祉士、看護師、事務員で構成され、3つの役割があります。

1つ目は「インフォメーション業務」です。

場所は眼科の横にあるカウンターで、来院された方の様々なご質問にお答えしています。

カウンターには頼りになる看護師がスタンバイしています。「足が腫れとるんやけど、虫に刺された覚えはないんや。皮膚科に行けばいい？それとも整形外科か？」という質問も症状を詳しくお聞きして何科を受診すればよいかアドバイスをします。「ここに来ればなんでも教えてくれるんや。」というお声を聞くと嬉しくなります。院内で何かお困りの方は声をかけてくださいね。

2つ目は「前方支援」です。

前方支援という言葉は専門用語ですのでわかりにくいかもしれませんが、患者さんがかかりつけの医療機関から当院を受診される際スムーズに診察ができるように予約を取ったり、救急で他院に入院された患者さんが当院に転入される場合の段取りをする業務のことです。

この業務はあまり患者さんに直接お出合いする仕事ではありません。縁の下の力持ち的な仕事なのです。

3つ目は「後方支援」です。

前方支援に対し後方支援は、主に綾部市立病院から他の医療機関へスムーズに次の治療が受けられるように受診の予約をとったり、入院されている患者さんに対して必要なサービスを案内し、退院後の生活が困らないようお手伝いをする業務です。

入院中に介護サービスを利用できるように調整し、退院された患者さまの姿を外来でお見かけするとホッとします。ご家族から「デイサービスに通っている間、好きな事ができて助かります。それに訪問看護師さんも来てくれて安心です。」なんて声をかけられると担当者としてその日は一日幸せな気分で過ごせます。

入院患者さんに限らず、介護保険のことや経済的な困りごと、がんに関する生活上の相談、障害福祉のサービスの利用、子どもさんに関する相談、アルコール依存症などの精神に関わる困りごとを一緒に考え、専門機関を紹介したりします。また、医師や看護師、リハビリスタッフなどと連携して安心して生活ができるお手伝いをしています。

なかなか頼りになる連携医療室でしょ？



遠慮なさらず、いつでもお声を掛けてください。待っています！